

## 令和5年度大学院看護学専攻実践者養成コース

「地域包括ケア実習Ⅰ（1歳おめでとうイベント）」を紹介します。

大学院実践者養成コースでは、助産学と公衆衛生看護学の学生が合同で行う「地域包括ケア実習」を行っています。実践者養成コースでは助産師と保健師を目指す学生が合同で学ぶことにより地域の母子保健に関する課題や健康危機管理に関する課題を明確にして、多職種と協働して構築する地域包括ケアシステムや地域づくりを体験的に学ぶことが可能です。

助産学の学生が病院における実習で分娩時から受け持った母子を産後1か月から公衆衛生看護学の学生と1年間にわたり、家庭訪問・4か月相談・ハーフバースディ等の機会を通して継続して関わっています。令和5年9月21日に、1年間の受け持ちの最後になる「1歳おめでとうイベント」を開催しました。7組の母子が参加され、身体計測、健康教育（備えよう！お母さんとお子さんのための防災）、写真スポット、保護者同士の交流会を行いました。

ハイハイ、伝え歩き、一人歩きを始めたばかりの子どもさんがいるので、にぎやかなイベントになりました。参加者からは、「同年齢の子どもたちと触れ合う機会があり良かった」「手形とかは家ではなかなかできないので嬉しかった」などの意見がありました。

(担当者：佐々木純子、野口純子)



(秋の風景の写真スポットで、親子の記念撮影)



(健康教育のテーマは、「備えよう！お母さんとお子さんのための防災」でした。

子どもたちの元気いっぱいの動きにドキドキしながら行いました。)